

# 河内麦づくり情報 ～栽培準備編～

令和元(2019)年8月 河内農業振興事務所・JAうつのみや

## 1 令和元年産の生育について

- ・10月中旬以降、天候が比較的安定したこともあり、播種作業は平年並に進んだ。
- ・10月上旬から12月上旬にかけて、気温が平年より高く推移し、生育は早まった。
- ・苗立数は平年並で、初期生育は良好であった。
- ・12月下旬から2月上旬まで降雨が少なく、乾燥状態が続き、生育は一時抑制されていた。
- ・播種が早かったほ場では、葉色が淡く推移して、播種が遅かったほ場では、低温・乾燥等の影響で生育が遅れた。
- ・茎立期(3月上旬)以降、氷点下を記録する日が数日あったことにより、一部で幼穂凍死が確認された。

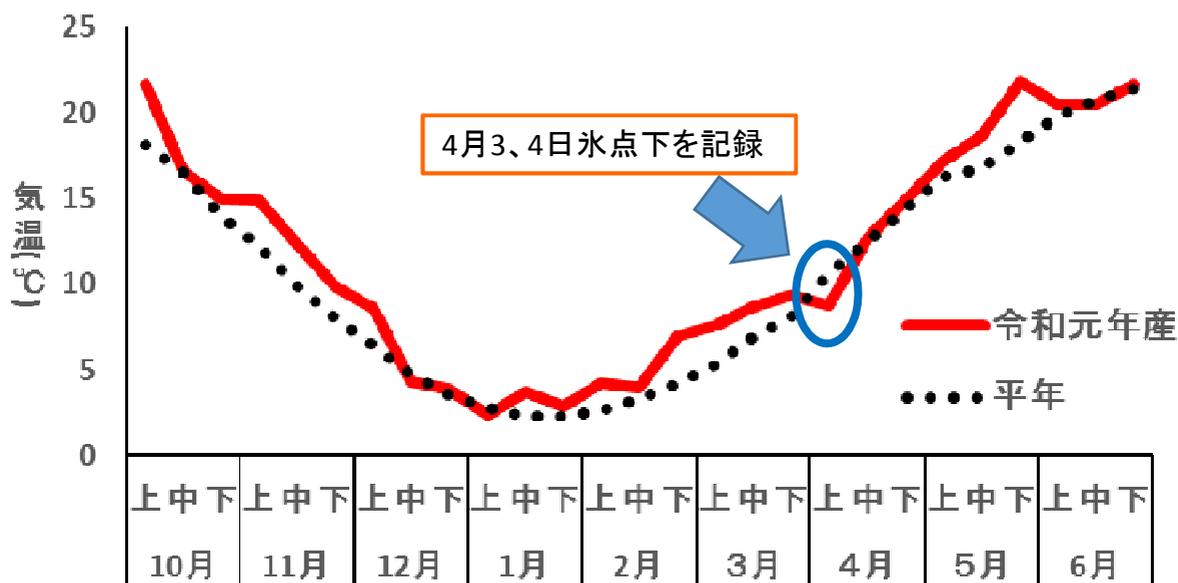


図1 旬別平均気温(°C)(2018年10月1日から2019年6月30日まで)

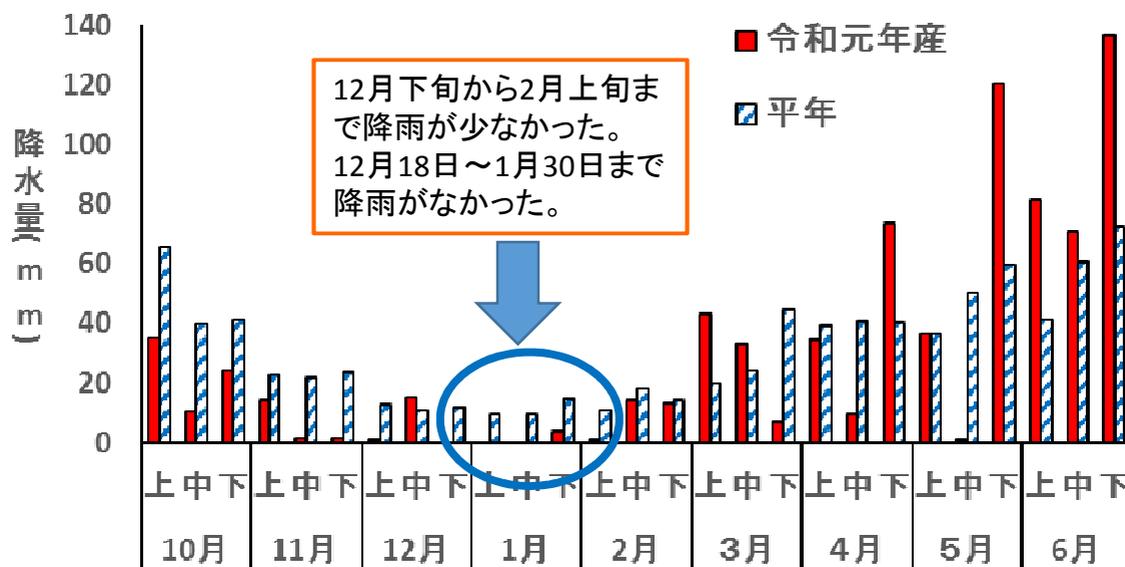


図2 旬別降水量(mm)(2018年10月1日から2019年6月30日まで)

## 2 栽培のポイント

### (1) ほ場の準備

- ① ほ場の選定：排水良好なほ場、そば跡への作付は厳禁、連作回避、団地化
- ② 排水対策：心土破碎、排水溝設置

表1 ほ場における排水対策

排水良好ほ場	排水不良ほ場
ほ場周辺に排水溝設置 心土破碎(プラソイラー等) (5～10m間隔に排水溝設置)	心土破碎(プラソイラー等) ほ場周辺に排水溝設置 5～10m間隔に排水溝設置 (畝立て同時播種栽培の実施)



写真1 排水溝の設置状況

### (2) 土づくり ～土壌診断による土壌改良を実施しましょう～

- ① 麦類は一般的に酸性土壌に弱く、土壌が酸性化すると収量に大きく影響
- ② 麦類は苦土の要求度が高い

目標値：pH6.5、可給態りん酸20～60mg/100g **苦土不足に注意！！**

施用例1) OM-37 (石灰質肥料、磷酸質肥料、苦土肥料)：80～100kg/10a

施用例2) 苦土重焼燐 (磷酸質肥料、苦土肥料)：20kg/10a

+ 苦土タンカル (石灰質肥料、苦土肥料)：60～100kg/10a

### (3) 施肥

前年度の蛋白含量分析結果や、ほ場毎の生育量等を参考に、肥料銘柄や施用量を調整

※前年、高蛋白は、緩効性窒素の少ない肥料へ変更又は減肥

低蛋白は、緩効性窒素の多い肥料へ変更又は増肥

生育量の小さいほ場は、増肥

倒伏が見られたほ場は、減肥

表2 主な麦専用肥料

肥料銘柄	成分 % ( )内は緩効性窒素	備考
BBビール麦ライト002	10-30-12	緩効性窒素の配合無し
BBビール麦2号	8(1.5)-18-16-Mg2	緩効性窒素(LP40)は窒素成分8%のうち1.5%配合してある
BBビール麦エース	14(5.6)-18-14	緩効性窒素(LP40)は窒素成分14%のうち5.6%配合してある
BBとちぎ麦専用500	25(15)-10-10	緩効性窒素(PCU2M+Mコート)は窒素成分25%のうち15%配合してある

表3 窒素施肥量

品種名	窒素施用量(kg/10a)
ニューサチホゴールデン	6.5～8.0

### (4) 播種

- ① 種子消毒：「オオムギ斑葉病」などの種子伝染性病害を防ぐため、種子消毒は必ず実施する。  
防除法は「(7)病害対策」を参照
- ② 播種基準日：県中部11月6～15日、県南部11月9～18日 ※季節予報を参考に播種時期を決める。  
暖冬予報：上記より5日遅らせる、寒冬予報：上記より5日早める

表4 播種量

品種名	播種量(kg/10a)	備考
ニューサチホゴールデン	8.5	播種が適期より遅れた場合は、5日遅れる毎に播種量を10%程度増量する。なお、播種量の上限は20%増まで

## (5) 雑草対策

### ① カラスムギ・ネズミムギ対策

カラスムギの出穂前の特徴: 葉耳がない。葉鞘から葉身基部にかけてまばらに毛がある。  
また、葉身が灰色を帯びた印象がある。  
ネズミムギの出穂前の特徴: 葉耳がある。葉鞘や葉身背面に光沢がある。

図3 カラスムギ・ネズミムギ防除対策

	夏期湛水 (効果大)	プラウ耕 (効果やや大)	不耕起管理 (効果やや大)	石灰窒素散布 (効果やや大)
6月	麦収穫			
7月	代かき	プラウによる 天地返し (1回のみ)	不耕起	石灰窒素散布 (30~50kg/10a) 散布後浅く耕起
8月	常時湛水 1~2ヵ月間			
9月	耕起			
10月	雑草発生状況に応じて除草剤(茎葉処理剤)を散布			
11月	麦播種※ 除草剤(シナジオ乳剤又は リベレーターフロアブル又はリベレーターG等)を散布			
12月	以降、カラスムギ等の発生に応じて手取り除草			

※ 夏期湛水以外では、浅めに耕起し、播種を適期内でなるべく遅らせる。



写真2 カラスムギ



写真3 ネズミムギ



写真4 収穫物にカラスムギが混入している様子

### ② そば対策

そばアレルギー体質の人がそばを摂取すると、微量でも症状が重くなることが多く、生命に関わることもある。そのため、そばが混入しないよう、次の対策を実施する。

表5 そば対策

	対策
そば-麦作付け	そば跡の麦の輪作は厳禁。
	水田での作付けの場合、一度水を張ってそばを処理する
	畑での作付けの場合、そば収穫後は一年以上作付けしない。その間漏生したそばは除草剤等で処理する。
そばが雑草化した場合	手取り除草や登録のある除草剤の散布により処理する。 春先の気温の上昇とともにだらだら発生するため、除草剤は登録内容にある使用時期のなるべく遅い時期に散布する。 【例】アクチノール乳剤: <麦類>穂ばらみ期まで(雑草生育初期) バサグラン液剤: <麦類(小麦を除く)>生育期(雑草の3~6葉期)但し、収穫90日前まで

## (6) 麦踏み

- ① 時期: 麦3葉目展開(2.5葉期)後から、  
茎立期(幼穂長2.0cm)直前まで
- ② 回数: 年内1回~2回、年明け2回程度



写真5 2.5葉期すぎ

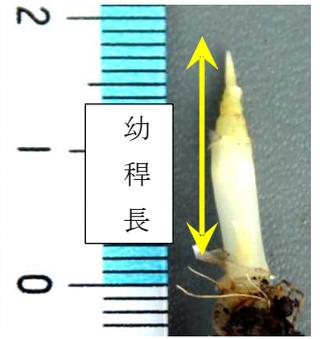


写真6 幼穂長

## (7) 病害対策

### ① オオムギ斑葉病

表6 オオムギ斑葉病技術対策

対策	
オオムギ斑葉病	種子消毒(浸漬処理)を行う 例) ベンレートT水和剤またはベフラン液剤25等
	遅播きすると発生が増加するため、適期に播種する
	病株を速やかに抜き取り焼却処分する
	発生の多いほ場では連作を避ける



写真7 オオムギ斑葉病

種子消毒:

種子消毒の効果は、**浸漬処理** > **湿粉衣処理** > **乾粉処理** の順で効果が高いとされる。

### ② 赤かび病

表7 赤かび病防除時

期 麦種	防除適期	多発の恐れがある場合 (不稔粒発生など)
二条大麦	穂揃い期7~10日後(葯柄抽出期)	1回目の7~10日後に2回目散布



写真8 赤かび病

代表的な防除剤:

シルバキュアフロアブル、ワークアップフロアブル、トップジンM水和剤等

※耐性菌の発生を防ぐため同一グループの薬剤の連用は避ける

## (8) 適期収穫



二条大麦(ビール麦): 穀粒水分25%以下

- ① 日にちの目安 : 成熟期から3~5日後頃。
- ② 触った感じの目安 : 成熟期は爪跡が僅かにつく。
- ③ 見た目の目安 :
  - ・稈の緑が完全に抜ける(成熟期は穂首の緑がほぼ抜ける)。
  - ・ほ場全体の80%以上の穂首が90度以上に曲がった頃。
  - ・全ての粒にちりめんじわがよっている。



7月~8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

高齢者の事故が多発しています! 余裕を持った作業を心がけましょう。